



小学生・中学生の皆さんへ

2024年[令和6年]

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報 Jr

3.14
No.160

あらかわ区報Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>

ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア



ちゅう きん わか て しょく にん
鑄金の若手職人

まつ もと やす よし
松本育祥さんに

弟子入り

でしいり

いち にち



今回、諏訪台中学校のジュニア記者が訪問したのは、荒川区で100年以上、「鑄金」という金属工芸の仕事をしている堀川鑄金所。ここで働く松本さんに弟子入りして、「鑄金」について教えてもらいました。見慣れない道具がたくさんある作業場で、緊張の取材が始まります。



問い合わせ

あらかわ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

つぎ 6月 には 発行 する 予定 です

まずは気になることを質問！

さあ、鑄金体験です！

鑄金って何ですか？

日本に古くから伝わる金属工芸の一つ。砂で作った「鑄型(砂型)」に溶かした金属を流し込むことで成形する技法です。鑄金では、建物の銘板やドアノブ、神輿の金具のほか、銅像や大仏など大きな物も作ることができます。



▲ジュニア記者は、学校の授業で鑄金について習ったことはありましたが、実際に見るのは初めて。松本さんの説明を真剣に聞きます



砂型作りの砂は「鑄物砂」と呼ばれます。鑄金の作業で使った焼けた砂に新しい砂を混ぜ足しながら使われてきました。100年以上前の砂が混ざっているかも！

この砂、実はすごいです

作品を見てみよう！

堀川鑄金所には、これまでに松本さんと師匠で三代目の父・隆一さんが手がけた作品が、所狭しと飾られています。数々の工芸展で入選していて、昨年開催された「第70回日本伝統工芸展」に松本さんが出品した「臙銀盛器「式」という作品は、日本工芸会奨励賞を受賞しました。



▲「臙銀盛器「式」。全国各地の展示会場を巡回したあと、三重県の伊勢神宮で展示される予定です



▲中央は、紫銅花器「祥瑞」という作品。「第58回日本伝統工芸展」に出品・展示されました



▲朱銅花器「汀」。「第51回伝統工芸日本工展」に出品・展示されました

いろいろな教えてください。



鑄金のこと

そもそも「鑄金」とは何なのか？ 一体、どのようモノを作ることができるのか？ 若手職人の松本さんに、いろいろな聞きまわりました。さらに、松本さんの指導で鑄金体験もしました。さて、上手にできるかな？



箸置きとお皿を作ります！

いよいよ鑄金体験！ 鑄金の作業は、「原型の準備、型どめ、鑄込み、仕上げ」の順に進みます。今回は型どめからスタート。「失敗してもいいので前向きに挑戦しましょう」と松本さん。大人でも苦戦するという鑄金体験で、どんな作品が完成するかな？



▲砂型作りには、作りたいものの原型と、その押し台が必要です。手前がお皿、奥が箸置き用の原型です



石塚 堅太さん

一つひとつの作業を慎重に！

「型どめ」がとにかく大変です



▲「型どめ」とは、金属を流し込むための砂型を作る作業。押し台の上に原型を乗せて、砂が張り付かないように「別れ砂」と呼ばれる白い粉を振りかけます。別れ砂には、牡蠣の殻から作る白い色の絵の具・胡粉が含まれています



ふるいを通して、キメが細くなった砂だけを、金枠の中に原型が隠れるくらいまで入れます。手に持ったふるいを、もう片方の手にぶつけるように動かすとスムーズです



スコップで山盛りの砂を入れ、突き棒という道具で表面の砂を固めていきます。金枠に沿った外周は固くならにくいので、念入りに押し固めます

表面が終わったら裏面の作業へ



上下の金枠を押さえながら、胸の前まで上げた砂型を回転させます。ここで御神本さんの砂型が崩れてしまい、再チャレンジ！ 裏面も同じ作業を繰り返したあと、慎重に原型を外します

今回は「錫」を使います



▲砂型に流し込む金属の錫を、柔らかくなるまで溶かします。錫は身近なものにも使われていて、10円玉は銅と錫の合金である青銅でできています



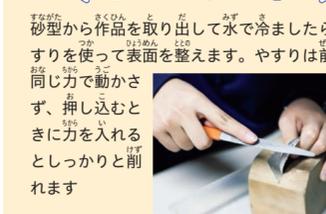
▲溶かす前の錫のかたまり。純度の高い錫は金属の中でも比較的柔らかく、手の力で曲げることができます

緊張の「鑄込み」



いよいよ砂型へ流し込む「鑄込み」の作業。溶けた錫は水のようにサラサラですが、すぐに固まってしまうので素早く流し込みます。両足を左右に広げ姿勢を整えたら、バランスを崩さないようにしっかりと容器を持ち、一気に流し込む！

最後はやすりできれいに「仕上げ」



砂型から作品を取り出して水で冷ましたら、やすりを使って表面を整えます。やすりは前後に同じ力で動かさず、押し込むときに力を入れるとしっかりと削れます

どうして職人の道を選んだのですか？

元々モノづくりが好きだった松本さんですが、この工房の跡を継ぐ予定はありませんでした。父の隆一さんは自分の代で工房を閉めるつもりでしたが、ある日、「国会議事堂で使うドアノブを1000個作ってほしい」という大量注文が入り、その手伝いを始めたことがきっかけで職人の道へ。現在は堀川鑄金所の四代目として、親子二代で活躍されています。



▲松本さんは「もっと多くの人に鑄金を知ってほしい」と、10年ほど前から鑄金体験教室を行っています。鑄金体験ができる場所は数少なく、全国から希望者が訪れます

天井にはたくさんの原型が



作品の原型がずらりと保管されています。かつて西日暮里は鑄物の街として知られ、多くの鑄造所がありました。中央区の日本橋に据えられた青銅製の麒麟像や、千代田区の大手町にある和気清麻呂像は、この周辺の鑄造所が協力して製作しました

松本育祥さんはこんな人

堀川鑄金所四代目。荒川の匠育成事業を活用し、三代目である父・隆一氏(荒川区登録無形文化財保持者。二代目の堀川次男氏(故人、元荒川区指定無形文化財保持者)に師事)のもとで修業。上記の賞のほか、2021年「第61回日本伝統工芸展奨励賞」など多くの受賞歴を持つ。

<堀川鑄金所ご案内>

荒川の匠育成事業の修了者や修業者の若手職人の作品を展示します！

会場 荒川ふるさと文化館1階 荒川かわ伝統工芸ギャラリー

期間 3月15日(金)～6月12日(水)

観覧料 無料

荒川ふるさと文化館イベント

イベント その1

「はばたけ！若手職人展 ～技をつなぐ～」

会場 荒川ふるさと文化館1階

期間 3月15日(金)～6月12日(水)

観覧料 無料

イベント その2

令和5年度第62回 館蔵資料展「古写真にみる近代あらかわ」

会場 荒川ふるさと文化館1階企画展示室

観覧料 100円

※荒川区在住の中学生以下、65歳以上の方、障がい者とその介助者は無料

3月31日(日)まで開催中！

上手にできました

テレビや本で鑄物を見たときは難しく思ったけど、無事に作品ができ上がったので安心しました。木材にはない金属ならではのメリットを生かしたものがたくさんあることを知ったし、良い経験になりました。(石塚さん)

鑄金はすごく繊細な作業だと思いました。途中で失敗してやり直すことになったときはちょっと焦ってしまいましたが、時間をかけて一つのものを作る体験は達成感があって、とても良かったです。(御神本さん)



御神本 百香さん

砂のさわわり心地はふわふわです



令和5年度 今年も素敵でおいしいそななお弁当がたくさん選ばれました。小・中学生の部で選ばれた各賞のお弁当を紹介します!

あらかわお弁当レシピコンテスト 受賞作品発表!

荒川区長賞

小学校
1~3年生の部

ここにこ、いろどり、おべんとう。



しほりしほりこ 沙入小学校・2年生
あおば なぎさ 青羽 渚さん

おとうとがピクニックに行きたいといっていたので、このおべんとうを作ってみなで食べました。おとうとはレンコンハンバーグがおいしいといっ、うれしかったです。

小学校
4~6年生の部

夏野菜で夏バテ防止弁当



だいもんしほりこ 大門小学校・5年生 及川 ひよりさん

夏バテ気味のお父さんに元気を出してほしくて、お弁当を作りました。夏野菜をメインに、色どりを考えたりサッパリしたものを入れたりしました。

女子栄養大学学長賞

小学生の部

「まごわやさしい」にじいろべんとう。



だいさげたはほりこ 第五峽田小学校・3年生
あみの たいと 網野 太人さん

みためがにじのようにカラフルで元気になれるようなおべんとうをつくりました。お母さんと「まごわやさしい」しよございをかながえました。

中学生の部

おいしい! ヘルシー! まごわやさしいyō! 弁当



すわだいしほりこ 諏訪台中学校・3年生
わたなべ りん 渡邊 凛さん

いつも手作りの食事を作ってくれる母の助言をもらい、「まごわやさしい」という日本ならではの言葉で、栄養バランスのよい日本食のお弁当を作りました。

中学生の部

「さあにぎやか(に)いただく」 祖父母のためのフレイル予防弁当



すわだいしほりこ 諏訪台中学校・2年生
さいとう このか 齊藤 好花さん

祖父母が元気でいられるよう、食品摂取多様性スコアを構成する10の食品群の頭文字の「さあにぎやか(に)いただく」を参考に、バランスのよいお弁当を作りました。

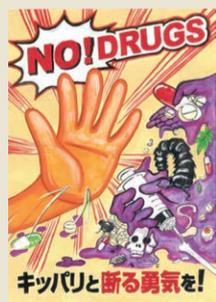


どれもおいしそうだね!

Topics

令和5年度薬物乱用防止ポスター・標語東京都選考で入賞しました

薬物乱用防止推進荒川地区協議会では、区内の中学生に薬物乱用問題への関心を持ってもらうため、毎年、薬物乱用防止ポスター・標語作品を募集しています。今回、荒川地区で集まった作品のうち、地区会長賞となったポスター・標語を東京都選考へ推薦したところ、下記の作品が入賞しました。東京都全体ではポスター・標語で計44000点以上の応募があり、荒川地区推薦のポスターが入選したのは6年ぶり、標語は初の入選です。入選した作品は、東京都庁や都の施設などで展示されました。



その手には薬物ではなく未来をつかもう

標語の部 優良賞 諏訪台中学校2年 磯部沙良さん

ポスターの部 優良賞 だいさんちゅうがっこう 第三中学校1年 たんのあやね 丹野綾音さん

(承認番号: 5 保医健薬第2707号)

あらかわ 今昔ものがたり 日 [あらかわの歴史と伝説]

その150 川を渡る~尾久と渡し場~

♪春のうらの 隅田川 のぼりくだりの 船人が♪
この歌、知っているかい? そうそう、滝廉太郎作曲の「花」。船が行き交う春の隅田川を詠った歌だね。明治時代から昭和時代の初め頃、水上交通としていろんな船が利用されたんだ。この頃のあらかわでは、千住大橋以外に橋が無かったから、船は対岸に渡るためにとても重要な役割を果たしたんだよ。
歩いて渡る! といっても、船を必要としないひと 江戸時代、上尾久村の華蔵院(東尾久八丁目)の威震さんが、夜になると寺の裏の荒川(現隅田川)を歩いて渡り、千住(足立区)の方に出かけて行ったというんだ。目的は、名倉接骨院に嫁いだ娘さんに会うためと言われていた。威震さんが、剣術の新陰流の達人だったから、水上を歩けたともいうよ(『尾久の民俗』)。もしかすると川の流れや浅瀬をよく知っていたから、できたのかもしれないね。じゃあ、尾久の村人たちはどうやって渡っていたのかな?
小台の渡し もともと尾久には、小台の渡し

【問合せ】あらかわ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



(現西尾久三丁目)という古い渡し場があった。村人だけでなく、西新井大師(足立区)などのお参りにも利用したそう。明治時代には、対岸に有名な「五色桜」があったので、その見物客でさらに賑わったそうだよ。
近代を見てきた渡し場 実はね、尾久には他にも渡し場があったんだ。近代になると、尾久の川沿いの辺りは工業地帯になっていった。上尾久の江頭(現町屋五丁目)に新渡し、東(現東尾久八丁目)に熊野の渡しが開業したんだって。工場で働く人たちの通勤手段として必要だったんだね。昭和7年(1932)頃の熊野の渡しの利用者数は15,600人を数えたそうだよ(『東京市荒川区勢要覧』昭和9年)。関東大震災の復興事業で、小台橋、尾竹橋などが架けられ、小台の渡しと新渡しは消えていったけど、熊野の渡しは戦後まで残っていた。対岸の工場の寮が尾久にあったので営業していたんだ。でも、工場がなくなって、昭和25年3月に営業を終えたんだって(『尾久の民俗』)。今度、渡し場の跡を散策して、渡し場があった頃の尾久の風景を想像してみてね。



小台の渡し『新東京大観』上 (荒川ふるさと文化館蔵)